

昭和48年9月1日



発行所 岩室村役場
印刷所 卷・北洋印刷K.K.

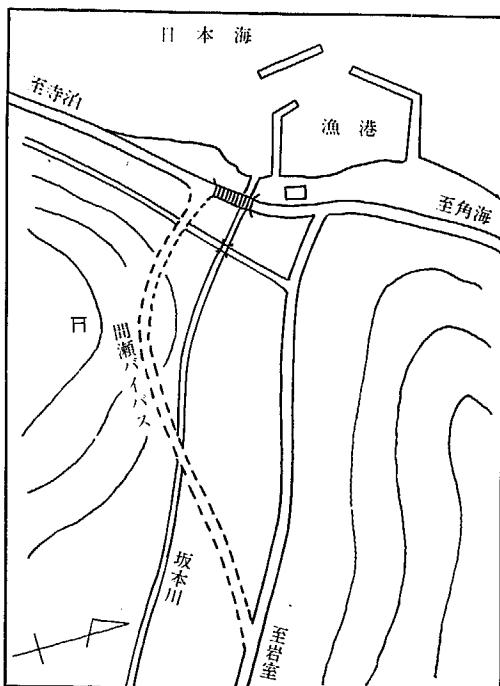
No. 137

(1)

岩室村の人口

| (8月1日現在) 前月対比 | |
|---------------|--------------|
| 男 | 4,235人 (+10) |
| 女 | 4,808人 (-2) |
| 計 | 9,043人 (+8) |
| 世帯数 | 2,075世帯 (-1) |

(住民基本台帳による)



間瀬部落より間瀬漁港に約一億一千三百六十万円で通する道路は、車員が陥落の昭和四十七年には四百万円うえ、最近の車両交通量の増加により、観光客等の車輌と漁港施設の機能がマヒし、地域の開発及び環境に大きな支障となつておる、間瀬地域住民をはじめ、村民の多年の要望であった間瀬バイパス道について、昭和四十七年以降、計画延長四五十メートル、総予算額

小沢代議士の同道を願い建

て、執行と議会とが貫となり、村長はじめ正副議長、當任委員長が、各方面に数回にわたる陳情を重ねてまいり、更に八月二日、建

設省、企画庁、大蔵省等に陳情し、国県当局のご理解により、国庫調整予算として五百六十万円の予算で事業が進められてまいりました。この度、早期完成につい

て、執行と議会とが貫となり、村長はじめ正副議長、當任委員長が、各方面に数回にわたる陳情を重ねてまいり、更に八月二日、建

設省、企画庁、大蔵省等に陳情し、国県当局のご理解により、国庫調整予算として五百六十万円の予算が決定されました。この悲願がかな、明春の越後七浦シーサイドラインのオープンまでには、交通可能な明るい見透しとなりました。

五、五五〇万円の

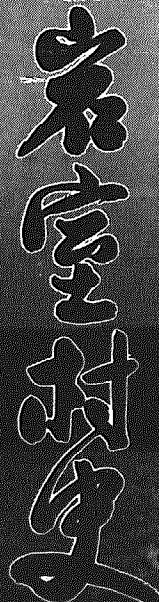
国庫調整予算決定

悲願の間瀬バイパス道

祖先のドラマとロマンが
いま生き生きとよみがえる！

今日を生き、あしたも生き、未来を創造するわれわれのためのかげがえのない、村民の記念として歴史が現代ほど重みをもつて追求されていく時代はない。新しい村民の必読の書として、かつてない費用と費用を投入されて編集された、この村史は、歴史ではない。

監修 新大教授 小村式



予約募集開始

十二月発行

たのしく読む。。。通史編
原稿を多く追ふ。。。史料編

予約価格 三、六〇〇円